

NPO入門

担当教員 小阪 亘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のテーマは「アクション」。NPOのスタッフやリーダーとして実際に活動している人を招き、沖縄の社会課題解決に向けて活動する現場について学ぶ。事例実践者とともに社会課題解決に向けて議論と提案をする。また、NPOについての理解を深めるためにレクチャーとワークを行いながら社会課題に気づき、アクションを起こす力を育むことを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 自己紹介（取り組む活動紹介）
2	知る・NPO活動と社会での役割（NPOとは、歴史と誕生など）
3	事例1（学生NPO）
4	考える・日本/沖縄の社会課題を考える（ワークショップ）
5	事例2（NPO/NGOで働く、個人）
6	知る・日本のNPO史とNPO法）
7	事例3（不登校/福祉、障がい）
8	事例4（子育てと子どものおもちゃ）
9	知る・社会を変える仕組みをつくる
10	考える2・APブラッシュアップワーク
11	ブラッシュアップワーク2
12	事例5（社会でチャレンジ）
13	NPOの資金源/ボランティア/寄付
14	それぞれのone action（まとめ、ふりかえり）
15	パートナー/企業CSR/行政協働
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

・事例発表のテーマやNPOについては変更する場合がある。 ・授業への参加人数や状況によっては（事例4～5）については、授業履修者にコーディネートしてもらう。

【評価方法】

授業参加（出席回数や授業への議論への参加度など）、毎回授業終了時に簡単なミニレポートを書き出席とする。レポートの提出状況、期末レポートによって判断。
（事例発表学習＋議論＋提案＋ミニレポート、以下同じ）

【テキスト】

・授業ごとに配布

【参考文献】

加藤哲夫著「一夜でわかる！NPOのつくり方」（主婦の友社 2004年）
駒崎弘樹著「社会を変える」お金の使い方」（英治出版 2010年）

教育学 I

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育学」という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心が、より深いものになることを期待する。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 学力と教育（1）―「学力低下」問題①
- 3 学力と教育（2）―「学力低下」問題②
- 4 発達と教育（1）―野生児の記録①
- 5 発達と教育（2）―野生児の記録②
- 6 特色ある教育の思想と実践（1）―シュタイナー教育①
- 7 特色ある教育の思想と実践（2）―シュタイナー教育②
- 8 ジェンダーと教育（1）
- 9 ジェンダーと教育（2）
- 10 生命と教育（1）―優生学と教育①
- 11 生命と教育（2）―優生学と教育②
- 12 人権と教育（1）―差別と教育①
- 13 人権と教育（2）―差別と教育②
- 14 平和と教育（1）―沖縄戦と教育①
- 15 平和と教育（2）―沖縄戦と教育②
- 16 定期試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験を認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジユメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

教育学Ⅱ

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 子ども理解について（1）—臨床心理学の知見①
- 3 子ども理解について（2）—臨床心理学の知見②
- 4 教師と教育（1）—今日の教師をとりまく社会的状況①
- 5 教師と教育（2）—今日の教師をとりまく社会的状況②
- 6 教師と教育（3）—「教師—生徒」関係の課題
- 7 性と教育（1）—性教育の現状
- 8 性と教育（2）—性教育の歴史
- 9 性と教育（3）—性と人間発達の理論
- 10 教育の現代的課題（1）—適応障害について①
- 11 教育の現代的課題（2）—適応障害について②
- 12 教育の現代的課題（3）—モンスター・ペアレントについて
- 13 歴史と教育（1）—歴史教科書問題を考える①
- 14 歴史と教育（2）—歴史教科書問題を考える②
- 15 いのちの教育について
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験を認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

協働社会論

担当教員 -具志 真孝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会の変化が著しく、地域住民の生活が多様化・複雑化していく中で、社会を構成する多様な主体（NPO、企業、行政等）による協働のまちづくりを推進していくことが強く求められている。その中で、新たな公共の担い手として、NPOが注目されており、本授業では、主として、NPOと行政との協働のあり方や事例を通して、協働のまちづくりを考える機会とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「NPOとは何か」～市民活動と社会的役割～
2	「NPO法人とは何か」～法人化の手続きとメリット・実績～
3	「那覇市におけるNPO活動支援の取り組み」
4	「オーストラリアの事例紹介(1)」
5	「オーストラリアの事例紹介(2)」
6	「地域通貨とコミュニティ」～世界の事例を通して考える～
7	「まちづくりの考程・情報生産技術(1)」
8	「まちづくりの考程・情報生産技術(2)」
9	「指定管理者制度の概要」
10	「指定管理者制度の事例紹介」～主に那覇市の事例を通して～
11	「協働のまちづくりとは」～主にNPOと行政との関わりの視点から～
12	「協働のまちづくりの事例紹介(1)」～社会教育行政を通して～
13	「協働のまちづくりの事例紹介(2)」～那覇市公民館の事例研究～
14	「協働のまちづくりの事例紹介(3)」～那覇市公民館の事例研究～
15	まちづくりコーディネーターの社会的役割と可能性
16	まとめ～振り返り～

【履修上の注意事項】

協働のまちづくりに関心のある学生の参加を望む。

【評価方法】

授業の出席日数、レポート等を勘案して評価する。

【テキスト】

特に、指定はない。適宜レジュメ、資料等を配布する。

【参考文献】

- ・「協働のデザイン～パートナーシップを拓く仕組みづくり、人づくり～ 世古一穂著 学芸出版社
- ・「にいがたまちづくり事典マチダス」企画・編集・発行 財団法人ニューにいがた振興機構 制作(株)博進堂
- ・「指定管理者制度に関する運用指針」～平成24年7月19日那覇市長決裁～

経済学 I

担当教員 一董 宜嫻

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

職業人必須の経済学基礎を実践的に訓練する。また、地元沖縄経済について入門的な内容を講義する。経済学部以外の学生が対象なので、経済学の知識は全く前提としない。初めて経済学を学ぶ学生も大歓迎。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄経済と経済学(テキスト)
2	沖縄経済と経済学(テキスト)
3	経済用語とグラフの見方(プリント)
4	沖縄の小売業—サンエの経済学(テキスト)
5	経済用語—規模の経済、範囲の経済、固定費用、総費用等(テキスト、プリント)
6	基地の経済学(テキスト)
7	経済用語—外部不経済、情報の非対称性、付加価値、機会費用(プリント)
8	失業問題の経済学(テキスト)
9	経済学用語—完全失業率、一人当たり県民所得、賃金の硬直性(テキスト、プリント)
10	市場の概念と機能について理解する—完全競争、寡占、独占の意味(プリント)
11	市場の概念と機能について理解する—県内の寡占や独占企業の事例(テキスト)
12	企業の価格戦略について理解する—価格と限界費用 の関係($p=, >mc$)、損益分岐点(プリント)
13	需要・供給曲線の均衡と社会的余剰について理解する(プリント)
14	完全競争市場と独占市場における企業の価格戦略(プリント)
15	5F：業界の競争環境を分析するフレームワーク(プリント)
16	課題の提出と期末テスト

【履修上の注意事項】

- ①授業態度に気をつける。受講には登録が必要である。
- ②プリント学習と課題に取り組むことが必要である。

【評価方法】

課題一回、期末テスト、出席などで総合的に評価する。

【テキスト】

沖縄国際大学経済学科編(2014年)『沖縄経済入門』東洋企画

テキストは授業と課題両方に使う予定なので、購入することが望ましい。適宜、学習プリントを配布する。

【参考文献】

講義で紹介する。

経済学Ⅱ

担当教員 未定

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会学 I

担当教員 末吉 重人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	ゆとり教育と詰め込み教育、沖縄の学力問題
第2回	マスコミ論入門	第10回	社会福祉入門 障がい者の歴史
第3回	マスコミの中立性 ビデオ視聴	第11回	知らないと損する社会保障
第4回	各紙の論調の比較検討	第12回	ビデオ視聴とその解説
第5回	家族問題入門	第13回	安全保障論
第6回	子どもの社会問題 ビデオ視聴	第14回	戦争の歴史
第7回	ジェンダーの問題	第15回	各種アプローチの紹介
第8回	教育問題	第16回	試験

【履修上の注意事項】

毎回、授業の最後に出席確認を兼ねたコメント表を提出してもらおう。次回の授業の最初に、コメントへの回答を行う。なるべくQ&A形式で授業を進行したいため、質問を大いに歓迎する。私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。授業に出席しないとテストが解けないので、そのつもりで受講すること。

【評価方法】

期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、球陽出版、2007年：500円）

【参考文献】

伊江朝章、波平勇夫、鵜飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年

社会学Ⅱ

担当教員 末吉 重人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期はやや深刻な社会問題を扱う。その際、社会学理論がどのように役立つかを学ぶ。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、特に最近毎年三万人を超えている自殺者問題（平成24年は3万人を下回った）をフランスの社会学者エミール・デュルケムの際に扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	宗教を焦点を当てたウェーバー社会学
第2回	社会学の始まりーコントと仏革命	第10回	宗教が判らないと21世紀は読めない
第3回	自殺論のデュルケム社会学	第11回	キリスト教とはどのような宗教か
第4回	デュルケムの自殺理論と自殺統計	第12回	その他の世界宗教をウェーバーはどう見たか
第5回	自殺関連のビデオ視聴とその解説	第13回	沖縄社会を宗教社会学で解く
第6回	20世紀の席卷したマルクス主義社会学	第14回	昔の沖縄に福祉が存在したか
第7回	20世紀と社会主義革命	第15回	沖縄社会論
第8回	ビデオ視聴とその解説	第16回	試験

【履修上の注意事項】

質問用紙へのコメントを用いたQ&A形式で授業を進行することが理想。どのタイミングでの質問を大歓迎する。しかし私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。授業に出席しないとテストが解けないので、そのつもりで履修すること。

【評価方法】

前後期とも期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、2010年：500円）前期と同じテキスト。

【参考文献】

『社会学講義』富永賢一、中公新書、1995年初版、900円

社会生活課題研究 I

担当教員 野見 収

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間が生まれ、歳をとり、各々の形でその生涯を全うする一連の過程の中で、人はどれほど多くの喜びや悲しみ、怒り、苦しみなどの経験を繰り返していくのだろうか。また、人はそうした数々の経験を通じて、その人生に何を付け加えていくのだろうか。

本科目が目指すのは、こうした素朴な問いの探究である。受講者各人の経験に即しつつ、演習形式で、「人間と教育」ないし「人間形成」をめぐる疑問や葛藤について思索を深めていきたい。

【授業の展開計画】

第1回 インTRODクシヨン

第2回～第14回 発表とディスカッション（検討文献『魂のアイデンティティ』）

第15回 小まとめ

第16回～第29回 発表とディスカッション（検討文献『教育人間学のために』）

第30回 全体まとめ

第31回 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・本科目は「教育学」ないし「人間形成論」の演習（ゼミナール）だと考えてもらって差し支えない。
- ・無断欠席・遅刻は認めない。
- ・各人、前後期あわせて二回以上の発表（検討文献にたいする考察・論点の提示）を課す。
- ・毎回、小レポートの提出を求める。
- ・共通科目「教育学Ⅰ」、「教育学Ⅱ」のいずれかを受講、単位取得済みであることが望ましい。

【評価方法】

発表内容、議論への参加度、出席状況、受講態度から総合的に評価する。

【テキスト】

前期：西平直『魂のアイデンティティ』金子書房、1998年

後期：西平直『教育人間学のために』東京大学出版会、2005年

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

社会生活課題研究 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、様々な分野で利用が必要となる、データ処理とその統計的な分析について、実際に「調査の仕方」を通してデータの収集の仕方を学び、次に「パソコンを用いた分析」を行っていきたいと思います。表計算ソフトであるExcelやRを用いて、受講者が手を動かしながら、表や統計分析を行っていきます。これらは社会に出てからも利用できるスキルになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	統計・調査入門	17	Rプログラミング
2	統計の考え方	18	Rプログラミング
3	質問紙の作り方	19	関連その他
4	文献調査	20	検定
5	文献調査	21	検定
6	仮説および質問紙作成	22	重回帰分析
7	中間レポートの発表	23	ロジスティック回帰・順序選択モデル
8	調査および集計	24	中間発表
9	分布	25	主成分・因子分析(1)
10	クロス集計表	26	主成分・因子分析(2)
11	相関・回帰分析	27	共分散構造分析
12	回帰分析	28	共分散構造分析
13	その他の分析手法	29	クラスタリング
14	発表	30	発表
15	最終レポート作成方法	31	最終レポートの提出
16	R入門		

【履修上の注意事項】

「統計学 I」を履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

出席を兼ねた課題提出（50%）、中間レポート2回、最終レポート（発表も課す）2回（50%）により評価。特にレポートの提出がない場合は即不可となるので注意。

【テキスト】

授業中に指定

【参考文献】

金明哲「Rによるデータサイエンス - データ解析の基礎から最新手法まで」森北出版

社会福祉入門 I

担当教員 竹藤 登

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。
2. 社会福祉の歴史・理念の変遷について理解させる。
3. 現代社会福祉の重要課題を理解させる。
4. 福祉新法について理解させる。
5. 人権と権利、権利擁護システムについて理解させる。
6. ソーシャルワークの実践を理解させる。

【授業の展開計画】

講義方式

1. 社会福祉とは 社会福祉の視点
2. 福祉の理念の変遷 歴史的背景 ノーマライゼーション
3. 福祉基礎構造改革 措置から契約へ
4. ソーシャルワーカーとは ソーシャルワーカーの役割
5. 障がいとは、障がい者の心理
6. 自立とは 自立支援とエンパワメント
7. 障害者総合支援法の概要
8. 高齢者福祉、介護保険法の概要
9. 生活保護法の概要
10. 児童福祉法の概要
11. 人権と権利(高齢者虐待対応) アドボカシー支援
12. 権利擁護システム(苦情解決・オンブズマンシステム)
13. 権利擁護システム(成年後見制度の概要)
14. 成年後見活動の実際
15. ソーシャルワーク実践事例(成年後見事例)
16. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

授業はその場でよく聞いて理解するように。
わからない専門用語は、その場で質問するか、質問用紙に書くと、翌週解説する。

【評価方法】

期末テスト 出席率 毎回授業後に実施する小レポートで評価

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

社会福祉入門Ⅱ

担当教員 竹藤 登

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 社会福祉援助技術の実際について理解させる。
2. 倫理性を身につける。
3. 個別援助技術を学ぶ。
4. 集団援助技術を学ぶ。
5. ケアマネジメント手法を学ぶ。
6. 社会福祉運営管理方法を学ぶ。
7. スーパービジョンを体験する。

【授業の展開計画】

講義形式及び演習形式

1. 自己覚知演習①
2. 自己覚知演習②
3. コミュニケーション技術演習
4. 面接技法演習
5. 利用者理解 利用者の困難性を環境因子から考える
6. 価値と倫理 倫理綱領を考える
7. 社会福祉援助技術の基本原則と種類
8. 個別援助技術（ケースワーク）の実際
9. 集団援助技術（グループワーク）の実際
10. 地域援助技術（コミュニティーワーク）の実際
11. ケアマネジメント手法の実際
12. ケアマネジメント演習 アセスメントからプラン作成
13. 社会福祉運営管理の実際（福祉経営五本の柱）
14. リスクマネジメント リスク管理と苦情解決
15. スーパービジョンの実際
16. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

演習方式の授業もありますので、積極的に参加すること。
わからない専門用語などは積極的に質問すること。
毎回授業後に提出する小レポートは、自分の考えをしっかりと書くこと。

【評価方法】

期末テスト、出席率、毎回授業後に実施する小レポートで評価する。

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

生涯学習概論

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生涯学習及び社会教育の意義と本質、生涯学習社会を支える各公共施設の専門職員に必要な考え方や職務内容を理解する。

そのため、教育分野全体の法体系、行財政などを取り上げ、家庭・学校・社会教育の関連性を把握する。さらに、生涯学習社会を支える各公共施設の地域社会への関わりと役割、MLAなどの連携・協力、そして施設を担う専門的職員の機能・役割について解説する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生涯学習の概念
2	生涯学習・教育論の展開
3	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 1
4	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 2
5	日本の社会教育
6	教育関連の法体系
7	自治体の教育行財政
8	社会教育の内容・方法・形態
9	生涯学習社会と教育施設の関連性
10	社会教育施設1-1：公民館：管理・運営・職員
11	社会教育施設2-1：博物館：管理・運営
12	社会教育施設2-2：博物館：職員：職員（学芸員）
13	社会教育施設3-1：公共図書館：管理・運営
14	社会教育施設3-2：公共図書館：職員（司書）
15	教育関連施設の連携・協力
16	試験

【履修上の注意事項】

出席回数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

【評価方法】

出席状況とレポート（または中間・期末試験）による総合評価とする。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

女性学

担当教員 新木 順子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

女性学 (women's studies) は、1960年後半、欧米の女性解放運動の中から生まれた新しい学問です。それは、従来の学問が男性に偏ったものであり、女性自身の関心や問題がほとんど排除されていたことに、女性たちが異議を唱えたことから始まりました。アメリカでは'70年より講義が開講され、わが国では'73年に「女性学」と命名され講座がもたれるようになりました。その内容は、男女の「らしさ」・性別役割や性差別の問題をはじめ、労働、心理、メディア、社会政策、思想などあらゆる現象にまたがる「学際的」なものとなっています。その一端に触れることで、男女問わず自分のあり方や社会を考えるきっかけになればと思います。

【授業の展開計画】

- 1、講義全体と受講に際しての注意事項の説明
- 2、女性学誕生の背景
- 3、ジェンダー（性別・らしさ・性役割など）について
- 4、家庭や学校教育における性役割の形成
- 5、女性の働き方や賃金
- 6、職場におけるセクハラ
- 7、恋愛、結婚、離婚
- 8、DVについて
- 9、オイディプスコンプレックス（男子の自我形成）、シンデレラコンプレックス（女子の救済依存願望）
- 10、メディアにみる男女の描かれ方
- 11、女性の憲法=「性差別撤廃条約」の成立
- 12、男女共同参画社会の実現に向けて
- 13、テストないしレポートの説明

*講義のテーマや内容によって2～3時間ほど時間がかかる場合があります。

【履修上の注意事項】

講義中の私語は厳禁です。代返、代筆はもってのほかです。

【評価方法】

出席は加点します（15点）。欠席の際は必ず届を出してください。

【テキスト】

【参考文献】

井上輝子著『新・女性学の招待』（ゆうひかく新書）は読みやすい入門書となっています。

政治学 I

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学 I」では現代政治学の基本理論を整理・紹介するとともに、現実には生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開講オリエンテーション - 「居酒屋政治談義」を超えて -
2	政治
3	政治学
4	政治権力
5	政治体制
6	政治過程
7	選挙 (1)
8	選挙 (2)
9	政党 (1)
10	政党 (2)
11	官僚制
12	利益集団・市民運動
13	マスメディア
14	地方自治
15	講義のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

「政治学 II」も履修することが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

使用しない。プリントを適宜配布。

【参考文献】

開講時に指定。

政治学Ⅱ

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学Ⅱ」では、社会科学における「実験」に相当する「比較」という方法を用いて世界トップレベルの研究成果を提示してきた、フランスの政治学者マテイ・ドガンの学説を手がかりに講義を行う。大局的な視点から各国政治や世界政治の実態を勉強することで、学生諸君の視野は「井の中の蛙・・・」を乗り越えて、一挙に全世界的視座へと成長するであろう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開講オリエンテーション
2	社会科学と政治学
3	社会科学に「パラダイム」は存在するかー社会科学の発展法則
4	比較という方法
5	社会諸科学のハイブリッド化
6	ポスト産業社会における階級
7	ポスト産業社会における宗教
8	ポスト産業社会における「地位の非一貫性」
9	西欧民主政諸国における政治への信頼の腐食
10	人間不信・制度不信・政党不信・政治家不信
11	ナショナリズムによる不信から相互の信頼へ
12	イギリスとイタリアーデモクラシーは生き残れるか
13	政治体制の正統性と脱正統化
14	ウェーバーの類型学の陳腐化
15	講義のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

「政治学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

マテイ・ドガン、櫻井陽二・芝田秀幹訳『比較政治社会学の新次元』（芦書房、2010年）。

【参考文献】

開講時に指定。

地理学 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学 I では、地球上の自然環境と資源と産業について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地形 ①
2	地形 ②
3	気候 ①
4	気候 ②
5	植生と土壌、水資源について
6	自然災害と環境問題①
7	自然災害と環境問題②
8	世界の農業形態①
9	世界の農業形態②
10	世界の農業形態③
11	林業と水産業
12	エネルギーと資源
13	世界の工業地域①
14	世界の工業地域②
15	世界の工業地域③
16	テスト

【履修上の注意事項】

小レポートを数回提出してもらう。また、この授業は教科書と地図帳および配布プリントをベースとして進めるので、必ず教科書と地図帳は購入すること。なお、地図帳については、高校生用の地図帳がある場合にはそれでもかまわない。出席を重視するので1/3以上欠席した場合には単位は認定しないので、注意すること。また、追試・再試は行わない。

【評価方法】

小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円
『新詳高等地図』、帝国書院 1,500円

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

地理学 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学には、特定の地域を対象に自然環境から社会環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類がある。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、「自然と人間」「空間・場所と人間」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、自然と人間の関係性を考える環境論的視点から講義を進める予定である。

【授業の展開計画】

- 1 地理学の成立と本質
- 2 地図の歴史
- 3 地図の種類と利用方法
- 4 地域と景観①－韓国済州島の景観－
- 5 地域と景観②－韓国済州島の景観－
- 6 地域と景観③－ミクロネシア地域の景観－
- 7 地域と景観④－ミクリネシア地域の景観－
- 8 地域と景観⑤－台湾の景観－
- 9 地域と景観⑥－台湾の景観－
- 10 環境と生態①－乾燥地域の環境－
- 11 環境と生態②－湿潤地域の環境－
- 12 環境と生態③－熱帯地域の環境－
- 13 環境と生態④－寒帯地域の環境－
- 14 開発と環境変化①－都市の拡大とヒートアイランド現象－
- 15 開発と環境変化②－都市と経済－
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅱでは、地図とGIS、地理学の歴史、生活文化とグローバル化について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生活空間の拡大と地図の発達
2	さまざまな地図
3	地形図の活用の仕方
4	地形図の活用の仕方
5	地理情報システムとリモートセンシング
6	村落と都市①
7	村落と都市②
8	消費と余暇行動
9	人口と食糧①
10	人口と食糧②
11	交通と通信
12	貿易と経済的な結びつき
13	国家と民族・文化
14	地域開発
15	21世紀の地理学ーこれからの地理学ー
16	試験

【履修上の注意事項】

小レポートを数回提出してもらう。また、この授業は教科書と地図帳および配布プリントをベースとして進めるので、必ず教科書と地図帳は購入すること。なお、地図帳については、高校生用の地図帳がある場合にはそれでもかまわない。出席を重視するので1/3以上欠席した場合には単位は認定しないので、注意すること。また、追試・再試は行わない。

【評価方法】

小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円
『新詳高等地図』、帝国書院 1,575円

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学には、特定の地域を対象に自然環境から人文環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類がある。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、「自然と人間」「人間と空間・場所」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、とくに地域論・空間論的観点から講義を進める予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	地理学と地図
3	立地と空間①－農業－
4	立地と空間②－農業－
5	立地と空間③－農業－
6	立地と空間④－工業－
7	立地と空間⑤－工業－
8	立地と空間⑥－工業－
9	立地と空間⑦－商業－
10	立地と空間⑧－商業－
11	立地と空間⑨－商業－
12	立地と空間⑩－商業－
13	都市の立地と空間構造①
14	都市の立地と空間構造②
15	都市の立地と空間構造③
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

日本国憲法

担当教員 井端 正幸

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近代以降の憲法は、基本的人権の保障と統治の機構を主な構成要素としている。その理念や基本原理をふまえた上で、現実の諸問題を考えなければならない。

この講義では、基本的人権の概念とその保障のあり方、日本社会における憲法問題、憲法をめぐる最近の諸問題、などを取り上げる予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	法・憲法とは何か — 国家と法、人権保障
3	基本的人権の歴史 — 近代と現代
4	二つの憲法と人権保障 — 臣民と国民
5	平和に生きる権利 — 平和主義と安全保障
6	外国人に人権は保障されるか — 人権の享有主体
7	「法の下での平等」の現在 — 「平等」原則と人権保障
8	ビデオ「私は男女平等を憲法に書いた」視聴
9	信教の自由と政教分離原則
10	表現の自由の規制と違憲審査
11	知る権利と情報公開
12	プライバシー権と個人情報の保護
13	営業の自由と財産権の保障
14	人間らしく生きる権利
15	教育を受ける権利と働く権利
16	試 験

【履修上の注意事項】

必要に応じて講義の際に指示する。

【評価方法】

- (1) 評価の基本は学期末の論述試験とする。
- (2) 必要に応じて、小テストを行うかレポートの提出を求める。

【テキスト】

テキストは使用しない（講義の際にレジュメ・資料等を配付する予定）。ただし、日本国憲法の規定・条文が載っているものを持参することが望ましい。

【参考文献】

- (1) 井端正幸・渡名喜庸安・仲山忠克編『憲法と沖縄を問う』法律文化社
- (2) 永田秀樹・和田進編『歴史の中の日本国憲法』法律文化社 等

日本国憲法

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、法・政治・行政に関心があるものの法律学を専門としない学部学生を対象に、「日本国憲法」を題材として必要な知識の習得を目的としています。日本国憲法の各条項に定められている内容とその基底にある原理の概要を学習します。[1]国家機関の権限、[2]憲法によって保障された基本的権利の意義、[3]憲法の基礎にあってこれを支える理念、これらを理解できることが到達目標であり、とくに公務員を志望する学生にとっての基礎力形成につながる講義にしたいと考えています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本国憲法の制定と「法の支配」
2	基本的人権の保障（総論）
3	包括的基本権及び平等原則
4	精神的自由（1）信教の自由と政教分離原則
5	精神的自由（2）表現の自由とその意義、その規制
6	精神的自由（3）表現の自由と個人のプライバシー
7	人身の自由（適正な刑事手続）
8	経済的自由（職業選択の自由及び財産権）
9	社会権（生存権、教育権及び労働基本権）
10	統治の基本原則（含：国民主権、平和主義）
11	国会の権限
12	内閣の権限
13	裁判所の権限
14	合憲性審査権①
15	合憲性審査権②
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

期末試験（筆記試験）のみで評価します。

【テキスト】

- ・裁判所職員総合研修所監修『憲法概説〔再訂版〕』（司法協会、2008年）

【参考文献】

- ・辻村みよ子＝佐々木弘通＝山元一編『憲法基本判例』（尚学社、2014年）
- ・法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012年）

日本国憲法

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、法・政治・行政に関心があるものの法律学を専門としない学部学生を対象に、「日本国憲法」を題材として必要な知識の習得を目的としています。日本国憲法の各条項に定められている内容とその基底にある原理の概要を学習します。[1]国家機関の権限、[2]憲法によって保障された基本的権利の意義、[3]憲法の基礎にあつてこれを支える理念、これらを理解できることが到達目標であり、とくに公務員を志望する法学部生以外の学生にとっての基礎力形成につながる講義にしたいと考えています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	憲法と立憲主義
2	日本国憲法の特質
3	基本的人権(1)・総論
4	基本的人権(2)精神的自由権：信教の自由と政教分離
5	基本的人権(2)精神的自由権：表現の自由をめぐる諸問題
6	基本的人権(3)精神的自由権：表現の自由をめぐる諸問題
7	基本的人権(4)経済的自由権
8	基本的人権(5)人身の自由（適正手続の保障）
9	基本的人権(6)法の下の平等
10	基本的人権(7)社会権
11	統治機構・総論
12	国会と内閣
13	国会の権限
14	内閣の権限
15	裁判所・憲法の保障（違憲審査制）
16	期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記試験）のみで決定します。

【テキスト】

駒村圭吾編『プレステップ憲法』（弘文堂、2014年）

【参考文献】

- ・佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）
- ・辻村みよ子＝佐々木弘通＝山元一編『憲法基本判例』（尚学社、2014年）
- ・金子宏＝新堂幸司＝平井宜雄編『法律学小辞典（第4版補訂版）』（有斐閣、2008年）

ビジネスの倫理

担当教員 一親泊 元彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化人類学 I

担当教員 火 4 担当：石垣直 水 3 担当：石垣直／山本ブードロウ成

対象学年 1 年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文化人類学」とは、「文化」というキーワードを基礎としながら、世界各地の諸社会および総体としての人類社会について、その多様性と共通性を明らかにしていこうとする学問分野である。本講義では、「人間と文化」という視点から人類社会に関わるさまざまなトピックを取り上げて、人類とは何か、人間社会とは何かについて考えていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化」とは何か——人類学と「異文化理解」
3	文化人類学の方法論——「社会・文化」を読み解くために
4	映像鑑賞
5	家族と親族（1）——親族研究の基礎と人類学
6	家族と親族（2）——キンドレッド／出自／婚姻
7	贈り物のヒミツ——贈与・交換の原理と「社会」
8	認識／コミュニケーション／儀礼——タブー論からイデオロギー論まで
9	「死」の扱い方と宗教——究極問題へのアプローチ
10	映像鑑賞
11	政治と権力——人類社会における諸政治形態と権力
12	身体とジェンダー——オトコ（△）であること、オンナ（○）になること
13	自然／環境／資源化——人間と自然環境との関係
14	アイデンティティ／民族／ナショナリズム
15	まとめ——「人類社会理解」への果敢な挑戦
16	期末試験

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30%）、筆記試験（70%）

毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

石川栄吉ほか（編）1995 [1987] 『文化人類学事典』弘文堂。

文化人類学 I

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文化とはなにか。成立して160年ほどの若い学問である文化人類学の視点をとおして「人間の在り方」を考えてみる。世界の様々な民族の社会・文化を知ることによって自らの文化について考える。また「誰が何をどのように文化を語るか」という文化表彰される今日の意味・議論にふれる。

【授業の展開計画】

- 1 週目 文化とは何かー文化人類学の概念・課題と方法ー
- 2 週目 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論
- 3 週目 文化人類学学説史① 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
- 4 週目 文化人類学をめぐる議論：植民地主義・本質主義・ネイティブとグローバル化
- 5 週目 生活の技術・経済の技術① パプアニューギニアトロブリアント諸島のクラ交換
- 6 週目 生活の技術・経済の技術② 海に生きる人々 スールー海の漂海民 国境・国民化
- 7 週目 照葉樹林文化 東アジアの自然と人々の暮らし
- 8 週目 世界の食文化 現代の食文化と日本・アジア 現代問題・グローバル・フードマイレージ
- 9 週目 西南シルクロード 中国西南部の民族
- 10 週目 中国の少数民族文化① 雲南省ナシ族・麗江 社会の構造 婚姻システム
- 11 週目 中国の少数民族文化② 雲南省チベット族 観光化・チベット仏教
- 12 週目 中国の少数民族文化③ ウイグル自治区中国・カシュガル 文化の記録・金属の技術
- 13 週目 東アジアの造形・色彩文化 紙（中国、日本、沖縄の紙の文化）
- 14 週目 身体加工・装飾文化 身体概念・アジアの入墨文化・人生儀礼
- 15 週目 空間認識の文化 東アジアの空間認識・風水・首里城・民俗方位
- 16 週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

* 図書館の図書分類380のコーナーには人類学・民族学関連資料にふれ学問のイメージを膨らませて欲しい

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

その他の 講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

文化人類学 I

担当教員 山本 ブードロウ 成

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化人類学Ⅱ

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学Ⅰ」では、生活に関連した諸トピックを取り上げることによって人類社会の多様性と普遍性を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な人類学理論をレビューすることを通じて、人類学（理論）からみた人類社会のありようについて理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化人類学」とは何か——人類学と「異文化」理解
3	人類進化の歴史——地球／生物／人類の歴史
4	社会進化論・伝播論・新進化論——人類史の一般化
5	文化とパーソナリティ論・心理人類学——「文化の型」、民族性
6	映像鑑賞——人類学者の仕事・『南太平洋の人々』
7	機能主義（1）——「社会の仕組み」を考える
8	機能主義（2）——「社会関係の基礎」としての「親族」
9	構造主義（1）——発想の由来とエッセンス
10	構造主義（2）——構造分析とその影響力
11	映像鑑賞——構造主義の復習&応用編・『音楽の正体』
12	認識・象徴人類学と解釈人類学——「文化」の捉え方
13	構造と実践——構造／歴史／主体性
14	日本の人類学——歴史と現在
15	まとめ——人類学理論と人類社会・文化の理解
16	テスト

【履修上の注意事項】

「文化人類学Ⅰ」の単位を取得したうえで本講義を履修することが望ましい。
 毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30%）、筆記試験（70%）
 毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期中間あるいは学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂
 石川栄吉ほか（編）1995〔1987〕『文化人類学事典』弘文堂

文化人類学Ⅱ

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文化とはなにか。成立して160年ほどの若い学問である文化人類学の視点をとおして「人間の在り方」を考えてみる。世界の様々な民族の社会・文化を知ることによって自らの文化について考える。1980年代から議論されるようになった「文化の語り」「文化政策」「文化表彰」「観光人類学」など現代問題を考える

【授業の展開計画】

*Ⅰ・Ⅱは単独登録可能のため1～4週目が同内容

- 1 週目 文化とは何かー文化人類学の概念・課題と方法ー
- 2 週目 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論
- 3 週目 文化人類学説史 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
- 4 週目 文化人類学の今日的議論
- 5 週目 文化表象① 展示 文化表象 民族博物館と展示と文化表象
- 6 週目 文化表彰② 文化ポリティクスとマイノリティー
- 7 週目 宗教人類学① 超自然・呪術と宗教・アニミズム 「宗教概念」の確認
- 8 週目 宗教人類学② 社会変動と宗教 宗教・政治・民族復興 シャーマニズム
- 9 週目 宗教人類学③ 宗教と現代/カルト
- 10 週目 宗教人類学④ 「靈魂観」の文化象徴ー空飛ぶものの文化ー
- 11 週目 構造人類学 レヴィ・ストロースの仕事 「サンタクロースの秘密」
- 12 週目 観光人類学① 文化の語り「文化表彰と観光」「創造される伝統」
- 13 週目 観光人類学② 伝統文化と観光 中国の中のチベット文化
- 14 週目 開発と文化① 異文化接触 文化の変容
- 15 週目 開発と文化② グローバル化と文化変容
- 16 週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

図書館の図書分類380コーナーの文化人類学・民族学の多くの本に触れ学問 イメージを膨らませて欲しい。

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

指定テキスト特になし

講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

法学

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、法・政治・行政に関心があるものの法律学を専門としない学部学生を対象とし、労働、住宅の賃借・売買、金銭の貸借、各種の事故と責任、あるいは婚姻などといった、各人の日常生活に最も関わりを深くもつ「民法」について学ぶものです。判例などの事例に依りつつ、民法の基本的な仕組みかつその重要な内容を学習することで、とくに公務員を志望する法学部生以外の学生にとっての基礎力形成につながる講義にしたいと考えています。後期の法学は「刑法」を主体とした講義となりますので、どちらか興味のもてる方を選んで、授業に参加してください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・民事法の意義
2	権利と義務
3	契約・法律行為
4	権利能力・意思能力・行為能力
5	代 理
6	時 効
7	契約の成立・効果
8	契約の履行・不履行
9	所有権
10	不法行為
11	損害賠償
12	事務管理・不当利得
13	家 族
14	親子・扶養
15	相 続
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

期末試験（筆記試験）のみに基づき決定します。

【テキスト】

野村豊弘『民事法入門[第5版補訂版]』（有斐閣、2012年）

【参考文献】

道垣内弘人『リーガルベシス 民法入門』（日本経済新聞出版社、2014年）

池田真朗『民法はおもしろい』（講談社、2012年）

『ポケット六法 平成26年版』（有斐閣、2013年）

法学

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、法・政治・行政に関心があるものの法律学を専門としない学部学生を対象に、「刑法」を題材として法学の基礎を身につけてもらう法学入門的な位置づけとなります。判例などの事例に依りつつ、刑法に固有の基本的な原則を学習することで、「法」がもつさまざまな特徴をより具体的にとらえることを目標とします。とくに公務員を志望する学生にとっての基礎力形成につながる講義にしたいと考えています。前期の法学は民法を主体とした講義となりますので、どちらか興味のもてる方を選んで、授業に参加してください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・刑法は何のためにあるのか
2	犯罪とその原因、刑罰とその種類
3	刑法とその解釈
4	犯罪論の基礎
5	構成要件
6	違法性
7	責任
8	故意と過失
9	未遂犯と共犯
10	どのようにして刑を決めるか
11	捜査と公判
12	成人以外の刑事手続
13	犯罪者処遇法・犯罪被害者保護制度
14	まとめ①（授業の進行ペースによる）
15	まとめ②（授業の進行ペースによる）
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

*成績評価は期末試験（筆記試験）のみに基づき決定します。

【テキスト】

井田良『基礎から学ぶ刑事法 [第5版]』（有斐閣、2013年）

【参考文献】

- ・山口厚『刑法入門』（岩波書店、2008年）
- ・井田良『入門刑法学・総論』『各論』（有斐閣、2013年）
- ・法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012年）

法学

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

法は社会における人々の行為規範として機能しており、私たちは法と向き合って暮らさざるをえない。日常生活における物品購入・借家・借金・保証などの契約関係、交通事故などの損害賠償、婚姻・離婚と親子の問題における法的保護、そして人の生死にかかわる法律問題など、さまざまな法現象が存在する。講義はできるだけ具体的事例に即しておこない、法とは何か、法はこの社会においてどのように機能しているのかを理解することを目標とする。そして、身の回りに生起する具体的な問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

週	授 業 の 内 容
1	登録確認および導入：法現象
2	六法の使い方：大学の単位と法
3	社会規範としての法：道徳の法化
4	法の分類：公法と私法、私法の一般法
5	出生と法：権利能力、法律行為能力
6	裁判制度：人の行為の法的評価、紛争解決
7	親族の法：親族、親子、親権
8	夫婦の法：婚姻、離婚
9	相続の法：相続、遺言
10	犯罪と刑罰：罪刑法定主義
11	契約の法：私的自治、契約自由
12	不法行為：損害賠償論
13	法の制定：立法権と脳死立法
14	基本的人権：幸福追求と平等
15	まとめ：最高法規としての憲法
16	期末試験

【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。
講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

【評価方法】

評価基準および出欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。
期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。
試験得点調整が必要な場合、出席を考慮する(1割程度)。

【テキスト】

講義にはテキストおよび六法（法令集）が必要である。開講時に紹介する。

【参考文献】

竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、君塚正臣『高校から大学への法学』（法律文化社）

ボランティア論

担当教員 島村 枝美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】